

タイトル	地域の自然を理解する取組
名称（学校・地域）	長野県白馬高等学校
日時・場所等	通年の取組
HPアドレス	http://www.nagano-c.ed.jp/hakubahs/

白馬高校 地域の自然を理解

1. 「環境」とは

学校設定教科「アルプス」の中で、学校設定科目「環境Ⅰ」、「環境Ⅱ」として展開している。2年次には植物の分類、地質や断層、森林計測法、生態系、水質検査法、水生昆虫の分類、里山の成り立ちなどの基礎的内容を学習する。3年次には野外での巡検、実践が中心となり、記録を野帳にとりながら毎週レポートを作成し、理解を深める。

2. 実践内容

地域の自然環境を理解し、地域に貢献できる人材の育成を目標とする

事前学習

植生調査方法、絶滅危惧種、水質検査
植生遷移、動物の生息痕、塩の道

地域からの支援、協力

白馬 47 スキー場、小谷村、白馬村
山菜・キノコ料理教室等外部講師
糸魚川市フォッサマグナミュージアム

現地学習により「環境」を実体験

干上がってゆくサンショウウオの池
ナラ枯れの広がり脅威
河川ごとの水質の差など
塩の道と里山の文化
実体験したものは強烈な印象で残る
メモを取り、レポートを作成すること
で理解をさらに深める

姫川での水生昆虫調査

白馬 47 スキー場冬の巡検

ナラ枯れ防除法の学習



3. 成果と課題

大北地域在住の生徒がほとんどであるが、入学当初は地域の山岳、地質や動植物の知識がない生徒が、授業を通じて「サンショウウオのいる湿原へ水を遮断している道路を何とかしたい。」「温暖化で雪が減ると、動物への影響が出る。」「ナラ枯れが今後どのように拡大するのか。」などと経験に基づいた「知恵」を身につけてゆく。これは豊かな自然に囲まれた立地の本校ならではの授業であり、その「知恵」を活かして地域の環境や観光に携わる生徒が増えてくれることを願う。